次回の展覧会（予定）

夏季企画展
「仏典の諸相（仮）」
2014年6月3日㈫－8月3日㈰

冬季企画展
「京都を学ぶ―山田文昭コレクション展―（仮）」
2014年12月9日㈫－2015年2月14日㈯

秋季企画展
「新指定　重要文化財（仮）」（実習生展併催）
2014年9月9日㈫－27日㈯

特別展
「戦国武将と神仏（仮）」
2014年10月11日㈯－11月29日㈯

大谷大学尋源館

大谷大学博物館

京都・大学ミュージアム連携
University Museum Association of Kyoto

Otani University Museum

〒603-8143 京都市北区小山上総町　Tel.075-411-8483　Fax.075-411-8146
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

- 地下鉄烏丸線「北大路」下車、6番出口すぐ
- 市バス「北大路バスターミナル」、「下総町」、「北大路駅前」下車
- 駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。ただし、身障者用の車の場合は事前にご連絡ください。

2014年度
春季企画展

清沢満之と大谷大学真宗

大谷大学のあゆみ

2014年
4月1日㈫―5月17日㈯

休館日　日・月曜日、5月6日（火・祝）
開館時間　午前10時～午後5時（入館は閉館の30分前まで）
観覧料　無料

大谷大学博物館
Otani University Museum

2014年度 春季企画展

大谷大学のあゆみ 清沢満之と真宗大学

大谷大学は、明治34年（1901）開校の真宗大学にはじまります。初代学監（学長）清沢満之は「開校の辞」に、真宗大学の特質を「宗教学校」、ことに「浄土真宗の学場」として「自信教人信の誠を尽くす人物を養成する」ことにあると明示しました。他の大学が近代的な諸学のみを求めるなかで、真宗大学は宗教を重視し、「真宗」を明らかにする人間教育の場として、独自のあり方を築きました。
この企画展では、清沢満之、浩々洞、真宗大学東京開校の３コーナーを設け、本学が所蔵する資料から当時を回顧します。

Ⅰ清沢満之

1　清沢満之肖像　１面
油絵・額装　明治38（1905）年　大谷大学蔵

中村不折（1866～1943）の揮毫。清沢は明治34（1901）年東京巣鴨で開校した真宗大学の初代学監（学長）に就任した。しかし翌年、教員資格取得をめぐって学生と対立し、学監を辞職。一方東京郷に「浩々洞」を開き、精神主義運動を提唱した。
平時は大谷大学講堂に第二代・南条文雄、第三代・佐々木月焦とともに掲げられている。

2　『宗教哲学骸骨』　１冊
紙本活版　明治25（1892）年　大谷大学図書館蔵

清沢満之の著した宗教哲学の概説書。清沢の最初の著書。真宗大学寮における講義の要旨で、稲葉昌丸の序が付される。書名の「骸骨」には、すべてのぜい肉を落して、生涯の思想を貫く、清沢の基本姿勢があらわれている。

3　*The skeleton of philosophy of religion*　１冊
紙本活版　明治26（1893）年　大谷大学図書館蔵

『宗教哲学骸骨』の英訳本。野口善四郎訳。1893年アメリカ・シカゴで開催された「コロンビア世界大博覧会」では「万国宗教大会」が行われ、野口は「世界の宗教」という発表の中でこの書を紹介した。

4　『欺異抄』　２冊のうち
紙本木版　元禄14（1701）年　大谷大学図書館蔵

親鸞の門弟唯円の著作とされ、師説にそむく異端を歎き、正統を示したもの。満之は本書を「安心第一の書」として尊重し、自己実存の要求に基づいて他力信仰の核心に触れた。

5　『阿含経』（縮刷版大蔵経）　１冊
紙本活版　大正３（1914）年　大谷大学図書館蔵

初期仏教の経典で、長・中・雑・雑一阿含の四阿含からなる。満之は本書を「東洋第一の書」と尊び、釈尊の出家修道の精神、さらに親鸞聖人の説く「真の仏弟子」の意義を問うた。

6　*The teaching of Epictetus*（エピクテタスの教訓書）　１冊
紙本活版　1892年　大谷大学図書館蔵

エピクテタスは奴隷の身でありながらその自由を叫んだ古代ギリシアのストア派の哲学者。満之はこの書に人間の自由と分限ということを学び「西洋第一の書」と仰いだ。

7　清沢満之書状　１通
紙本墨書　明治28（1895）年　大谷大学図書館蔵

東本願寺に対し財務整理と教学振興を献策していた清沢らは、学制改革に着手した木山との対立により頓挫した。本品はこの頃の清沢の心境を知る好個の資料であり、木格的な教学刷新運動への決意が見受けられる。

8　『臘扇記』（影印本）　２冊
原本：紙本墨書　原本：明治時代　大谷大学図書館蔵

明治31（1898）年８月15日から翌年４月５日までの満之の日記。自らを無用の者という意味で「臘扇」と号し、失意と煩悶の中で日々の出来事とその時々に去来した思想や信念が吐露されている。

9　清沢満之肖像　１幅
紙本石版　明治42（1909）年

清沢満之の肖像画。原画は中村不折が描き、第二十三代宗主彰如（句仏）が「南瓜にも仏性あらばこの通り」というユーモラスな賛を記す。清沢満之の七回忌には石版刷にて制作配布された。

10　「清沢先生終焉記」（『精神界』４巻６号）　１冊
紙本活版　明治37（1904）年　大谷大学図書館蔵

清沢満之の最期を看取った原子廣宣の日記。遺言を聞かれた満之は「何にもない」という言葉を残した。本品は『精神界』に掲載されたもので、満之が自ら筆を執り佐藤信次に宛てた端書きを付している。

11　「我は此の如く如来を信ず（我信念）」　１幅
罫紙インク書　明治36（1903）年

清沢満之の書状。晩年の清沢の信仰がうかがえる好個の資料。「私に対する」「無限の慈悲、無限の智慧、無限の能力」の実在を信じるのが「我信念」であるとした。如来を信ずることにおいて、虚心平気にこの世に生死することを得るのが清沢の精神主義である。

Ⅱ浩々洞

12　浩々洞洞人寄書（師友相照）　１幅
絹本墨書　明治時代

満之没後の記念に洞人等によって作成されたと伝えられる寄書。洞人12名のほか、上部には満之の次男・即住による寄書もみられる。

13　浩々洞三羽烏墨跡　３幅
絹本墨書　大正２（1913）年

若くして亡くなった暁鳥敏の麦房子のために、佐々木月樵・多田鼎・暁鳥敏の３人があらわした書。清沢のもとに最初に集まった３人は「浩々洞の三羽烏」と称された。

14　『精神界』　全141冊のうち
紙本活版　明治34～大正８（1901～1919）年　大谷大学図書館蔵

仏教の真意を平易な言葉で一般の人に伝えるために浩々洞が刊行した雑誌。印刷を高浜虚子に相談し、表紙絵・カットを中村不折に依頼、表題三文字を褚遂良の書から採字した。

15　『精神講話』　１冊
紙本活版　明治35（1902）年　初版　大谷大学図書館蔵

浩々洞で毎日曜日に清沢満之ら洞人によって催された精神講話のうちの清沢の講話集。「仏による勇気」は明治35年１月26日の講話で語られたもの。本品は第10版で、同42（1909）年刊。

16　『仏教辞典』　１冊
紙本活版　明治42（1909）年　大谷大学図書館蔵

佐々木月樵を中心に浩々洞で編集・刊行された仏教辞典。見出し語は約２万、仏教用語のほかに人名・地名を収録し、独特な読み方に呉音を付し、コンパクトながら総合的な仏教辞典となっている。

17　『真宗聖典』　１冊
紙本活版　明治43（1910）年　初版　大谷大学図書館蔵

明治44（1911）年親鸞650回忌を機に浩々洞で編集・刊行された浄土真宗の聖典集。大正年間に増補改版され昭和４（1929）年には第98版に及んだ。本品は第14版（明治45年刊）。

18　『親鸞聖人御伝鈔講話』　１冊
紙本活版　明治44（1911）年　大谷大学図書館

親鸞650回忌に際して浩々洞で刊行された『御伝鈔』に関する講話。『御伝鈔』は本願寺第３代覚如が著した『親鸞伝絵』から詞書を抜き出したもの。内容からは親鸞の真実に迫ろうとする気概が窺える。

19　『清沢先生の教訓』　１冊
紙本活版　大正４（1915）年　大谷大学図書館蔵

浩々洞で編集・刊行された清沢満之の教訓書。清沢13回忌の記念に刊行された。浩々洞編『清沢満之全集』から、清沢の教訓となる100条をまとめたもの。

20　『清沢先生の信仰』　１冊
紙本活版　明治42（1909）年　大谷大学図書館蔵

「我は此の如く如来を信ず（我信念）」に関する暁鳥敏の講話集。清沢満之７回忌に際し浩々洞が刊行した。清沢の東京大学時代の学友沢柳政太郎の序を付し、暁鳥の六回にわたる講話を収録する。

21　清沢満之七回忌追悼会写真　１枚
モノクロ写真　明治42（1909）年　真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

清沢満之７回忌追悼会に際しての記念写真。真宗大学講堂および浅草本願寺にて３日間にわたり追悼会および講話の会が開かれた。背景に「知進守退碑」がみえる。

Ⅲ真宗大学東京開校

22　真宗各学設立申請書控　１冊
罫紙墨書　明治32～33（1899～1900）年　大谷大学図書館蔵

東本願寺が企図した真宗大学、真宗京都中学、真宗東京中学などの設立申請書控。1899年10月、真宗大学は私立学校の許可願いを京都府知事内海忠勝に申請、同年11月７日に認可された。

23　等位認定申請書類（『真宗大学条例』のうち）　１冊
罫紙墨書　明治33（1900）年　真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

1900年２月、文部大臣 樺山資紀に等位認定を申請し、同月に認定された。等位認定とは、徴兵令第13条で、徴兵猶予された官立府県立中学校と同等以上と認めることである。

24　巣鴨村真宗大学ノ図　１枚
紙本墨書　明治時代　大谷大学図書館蔵

真宗大学構内の平面図。敷地の総面積は6830坪、建築総面積は831坪余りで、教場・寄宿舎・閲覧室・書庫・食堂など16の建物からなる。総工費は57,000円。明治33（1900）年７月着工、翌年９月落成。

25　真宗大学附近五千分之一略図・真宗大学構内略図　１幅
紙本活版　明治34（1901）年

真宗大学の周辺図および構内の略図。開校当時の巣鴨村は、のどかな田園風景が広がっていた。近隣に巣鴨監獄や東京真宗中学敷地などが記される。本品は『無尽灯』６巻10号の付録として付されたもの。

26　真宗大学新築の位置に就いて（『教界時言』第９号）　１冊
紙本活版　明治30（1897）年　大谷大学図書館蔵

東本願寺の寺務改正と教学刷新を訴える清沢満之が、明治29（1869）年に設立した『教界時言』に掲載した論文。真宗大学の所在地について、京都・東京の両京設置と東京先行を主張する。

27　真宗大学敷地購入校舎建築ニ関スル書類　１冊
罫紙墨書　明治32～33（1899～1900）年　大谷大学図書館蔵

真宗大学東京移転の際の敷地購入・校舎建築に関する書類。太清沢満之ら七人が建築掛に任命され、その用地は東京府北豊島郡巣鴨村大字巣鴨字宮仲（現、東京都豊島区上池袋一丁目）に求められた。

28　「知進守退」碑拓本　１幅
紙本墨拓　原碑：明治34（1901）年

東京開校を記念して建立された石碑の拓本。東本願寺第23代宗主彰如（句仏）の筆による。「知進守退」は、曇鸞の『浄土論註』に由来している。裏面に第２代学長南条文雄による真宗大学の沿革が刻まれる。

29　真宗大学東京移転記念写真　１枚
モノクロ写真　明治34（1901）年　真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

真宗大学の東京移転につき、東山の大谷祖廟に参拝し、知恩院山門前で撮影された記念写真。「大谷の松吹く風の音は永く忘るゝことが出来ぬ」という歌が雑誌『精神界』に残されている。

30　「真宗大学移転開校式」（『無尽灯』６巻10号）　１冊
紙本活版　明治時代　大谷大学図書館蔵

明治34（1901）年10月13日、東京真宗大学は開校式を挙行した。式典会場は、図書館閲覧室で、まず正面の仏壇が開かれ、一同起立に続いて「君が代」が演奏され、南条文雄による「教育勅語」奉読の後、初代学監（学長）清沢満之が「開校の辞」を述べた。

31　毎学年各学科担任表　１冊
罫紙墨書　明治34～44（1901～11）年
真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

真宗大学の学科担任表。本科（宗門の須要に応ずる学科を教授する）、予科（本科に入るための予備の課程）、各学年の学科担任者が記され、開校にあわせて教授陣の充実が図られたことがうかがわれる。

32　日誌　４冊（７冊のうち）
罫紙墨書　明治31～40（1898～1907）年　大谷大学図書館蔵

真宗大学で記された日誌。展示は、明治36（1903）年６月６日の初代学監（学長）清沢満之逝去についての記事である。真宗大学は臨時休校し、午前10時の出棺時刻にあわせた講堂での追悼会で哀悼の意を表した。

33　所化学籍　２冊
罫紙墨書　明治32～40（1899～1907）年
真宗総合研究所大谷大学史資料室蔵

真宗大学入学者の学籍簿。所化とは学生のこと。東京開校当時は予科97名、本科61名、研究院17名の合計175名が在籍していた。

34　所化心得并寄宿舎規定　１枚
紙本活版　明治時代　大谷大学図書館蔵

真宗大学の学生の心得と学生寮の規則。学生の心得の第一は、「宗義を信奉し智慧をし、布教伝道の基を建つべきこと」と記される。学生の多くは構内の寄宿舎で共同生活を送った。

35　掛時計　１点
時計　明治時代

真宗大学時代に使用されていたと思われる掛時計。精巧舎（現セイコー）製。明治34（1901）年８月、東京株式取引所仲買人の玉塚栄次郎より寄贈の旨が記される。

36　真宗大学広蓋　１面
木地漆塗　明治時代

真宗大学で使用されていた式盆。背面に金文字で「真宗大学」と記す。

37　西洋鐘　１点
青銅製　1903年製造　大谷大学蔵

明治36（1903）年の銘があることから、真宗大学時代に使用されていたものと思われる。
銘は「ALSTON/1903/WEST HARTLEPOOL」とある。